

新図書館（知的情報発信センター）建設についての提言

【提言】

愛知江南短期大学の西側未利用キャンパス約2,000㎡に図書館、生涯学習及び国際交流センターなどの機能を併せ持つ新図書館(知的情報発信センター)を建設する。新図書館運営には江南市、市民団体、愛知厚生連、愛知江南短期大学が協働参加して行う。

以上の提言について第4分科会（教育分野）にて検討の程、お願い申し上げます。

【現状と新図書館建設の意義】

新図書館建設は第4次江南市総合計画「マイタウン江南2005」の施策に取り上げられ、平成15年に策定された中心市街地活性化基本計画のなかでも、まちづくりの拠点公共施設として位置づけられていました。しかし、平成17年に新図書館建設は白紙撤回されており、その積み立て基金7億1,600万円も凍結状態であります。図書館は地域の知的財産を評価する尺度となります。現在、江南市戦略計画における「教育分野」の展望として唱われている「豊かな人間性と学力をもった子どもが育っていると同時に、生涯にわたり学び、それを活かしている。」を実現するためには知的情報を有する図書館は必要不可欠であると考えられます。

平成20年、愛知厚生連の新病院が高屋町に開院するに伴い、江南市内各所から新病院へのアクセスが多くなると考えられます。現在、石枕町神明にある図書館は交通アクセスが非常に不便であり、建物も老朽化しています。そこで、新病院に隣接する愛知江南短期大学内の西側未利用キャンパスに新図書館を建設することにより市民の図書館へのアクセスが非常に便利となります。さらに、江南短期大学より西側未利用キャンパスを無償（又は低借地料）で提供されることにより、建設事業費を有効に活用できると考えられます。

現江南市図書館（職員5名、内司書1名）は、蔵書数約10万冊（うち、郷土資料7千冊）、視聴覚資料1690点を有し、愛知江南短大図書館は蔵書数約6万冊、視聴覚資料1050点を有しています。短大図書館（職員3名、司書2名）は保育、福祉、栄養・調理、教養に関する専門図書が中心であります。また、新病院とともに移転する愛北看護専門学校も医学・看護図書などの専門図書を有しています。新図書館ではこれらの図書を蔵書とすることにより、郷土資料から学術教養・専門図書まで網羅することが可能となります。

江南市生涯学習基本計画の基本理念として、『みんなでつくる「いつでも、どこでも、だれでも」学べる生涯学習のまち こうなん』が唱われて種々の事業が展開されています。そのなかで、基本目標VIとして生涯学習の中核機能をもつ拠点づくりが掲げられていますが、現在その拠点となるべきものは見当たりません。また、世界に開かれた地域社会づくりと国際平和、国際親善を目的に設立された江南市国際交流協会は、その活動拠点として「ふくらの家」を有していますが、十分な施設とはいえません。したがって、図書をはじめとする知的財産を有する新図書館をベースにして、生涯学習及び国際交流などの機能を併せ持たせた拠点を建設・整備することにより、子どもから高齢者までの学習意欲や国際交流感覚の向上を期待できると考えます。